

# 連携室だより



Japan Community Health care Organization SENDAI MINAMI Hospital

## 〔病院の理念〕

本院は、地域社会における中核的な先進医療保健施設として、地域医療の充実と国民保健の向上に貢献します。

## 〔病院の基本方針〕

- 1.急性期医療を担う地域の中核病院として、安全かつ良質な医療を行うために適切な説明と同意に基づいたチーム医療を推進します。
- 2.地域の医療・介護福祉施設と連携を図りながら高齢者にも対応できる幅広い医療を提供します。
- 3.個人情報は厳格に保護し、診療内容に関しては真実説明で対応します。
- 4.全職員が自己研鑽に励みながら一丸となって地域医療に取り組みます。

## 目次



院長挨拶	1
診療科紹介(外科)	2
栄養と糖尿病を考える会開催報告・個別栄養指導のお知らせ	3
機器更新のお知らせ・糖尿病患者のご紹介について	4

## ご挨拶

病院長 朝倉 徹

皆様、平素より本院が大変お世話になっております。

10月末の宮城県知事選挙で5選を果たした村井知事ですが、4病院の統合移転問題を争点の一つに掲げました。県立がんセンターと仙台赤十字病院の統合、精神医療センターと労災病院の移転問題です。現在名取市内にあるがんセンターは多額の運営交付金を県から繰り入れており、数年前に県の附託を受けた第三者委員会が改革案を提言したことは県のHPに一部のみ掲載されました。ここに民間病院である赤十字病院と独法の労災病院という2病院を合体して移転するという案が浮上したものの、さすがに3病院の統合は難航したことから、がんセンターと仙台赤十字病院が名取市内に合併移転する案が浮上したようです。そもそも赤十字病院は全国的に見て、売却はあっても公立病院と合併した例はなく運営主体をどうするか見通しはあるのでしょうか。また統合される2病院の職員の雇用を維持するためには400床以上の規模は必要ですがこれほどの病院を維持するには相応の医療圏人口の確保が必要であり、名取市とその周辺のみでは不十分です。本院はもちろん県南中核病院や総合南東北病院などにも多大な影響が及びます。村井知事は仙南地区の救急搬送に時間を要する点を理由に挙げていますが、果たしてそうでしょうか。震災以降仙台市立病院の長町移転や東北医科薬科大病院設立によって仙台以南の交通網は劇的に改善しており、以前のような交通事情によって救急搬送の停滞をきたすことは激減しているはずですが、4病院の問題は地域医療構想の調整会議でも取り上げられているようですが、本院は既に同構想の対象施設となっており、中長期的対応策を迫られているのが現実で、2病院統合問題は存続に関わる大問題となっております。

以前から仙台医療圏の病床は急性期に偏っていることが指摘されてきました。今後医療圏の人口は漸減し、高齢者の介護や慢性期医療にシフトした医療提供が求められ、急性期医療のニーズは減っていきます。20年、30年先を見据えた医療提供体制を議論すべきであり、今回の4病院統合問題を県の地域医療構想の一環として話し合ってもらいたいものです。

平素より近隣の先生方、登録医の先生方には多くの患者様をご紹介いただきまして、心より感謝申し上げます。

JCHO 仙台南病院外科は、遠藤公人（平成元年卒）、原田昭彦（平成 9 年卒）、四條正浩（平成 22 年卒）、そして 4 月から佐藤学に代わって兒玉英謙（平成 6 年卒）が赴任し、4 名で診療しております。昨年の手術件数は全麻 190 件で前年とほぼ同様でした。コロナの影響を受けつつも手術数減少は何とか踏み留まった印象です。患者さんをご紹介いただいた先生方には重ねて御礼申し上げます。当院は消化器科医が院長を含め 7 人と充実しており、小さな病院の割には消化器疾患に恵まれた環境にあります。従って手術内容も胃切除 11 件、大腸切除 27 件、胆嚢摘出 74 件、膵切除 3 件、ヘルニア 51 件と消化器手術が多くを占め、積極的に腹腔鏡を用いた手術を行っております。今後もコロナによる患者さんの動きがどうなるか心配なところですが、今年には既に膵切除 6 例・肝切除 5 例と、新任の兒玉医師の得意とする高難度な肝胆膵手術が増え、今後が期待されます。

褥瘡ケアは、創部切開や陰圧閉鎖療法などの治療を積極的に行っております。入院・通院といった治療の場については、患者さんの状況にあわせて柔軟に対応させていただきますので、いつでもご相談ください。

また、癌化学療法・緩和ケア、あるいは仙台市立病院・大学病院・県立がんセンターなど急性期に特化した病院からのポストアキュート患者さん、例えば重症肺炎治療後のリハビリや、肺癌や婦人科癌の終末期などの転院も当科が担当させていただくなど、専門性にとらわれないオールマイティな診療を展開中です。

開業の先生方には少しでもお悩みの患者さんがおられましたら、外科っぽくないケースでも迅速に対応しますので、お気軽に地域連携室までお電話ください。

今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



四條正浩医師

遠藤公人副院長

兒玉英謙医師

原田昭彦医師



## 栄養と糖尿病を考える会

～地域における糖尿病治療を再考する～

地域連携室室長 高橋 秀子

9月30日木曜日、当院朝倉院長が座長となり「栄養と糖尿病を考える会～地域における糖尿病治療を再考する～」が開催されました。

太田西ノ内病院糖尿病内科センター長鈴木進先生にリモートでご講演いただき、仙台と郡山市を結ぶハイブリッド形式のWEB配信で行われました。

はじめに当院栄養管理室室長斎藤裕子より、「近隣クリニックと連携した栄養指導の実施」について報告させていただきました。12名の方に、38回の指導をさせていただき、指導効果を分析しました。指導中に効果があっても、時間の経過と共に悪化する方もいらっしゃるため、指導を継続させていただければ、先生方のお役に立てるのではないかと考えております。

鈴木進先生には「高齢患者さんの糖尿病治療を再考する」という題で、糖尿病患者さんの高齢化が急速に進んでいる事、高齢発症の糖尿病患者さんはフレイルについても考えなければならないこと、若年者と治療基準が異なる事などをお話していただきました。高齢糖尿病患者は個人差が大きいので、患者の背景をよくみる事、運動療法、たんぱく質摂取の重要性、エンドオブライフの患者は厳しいコントロールよりQOLが優先される事等をご教示いただきました。また、療養指導士の活用についてもご指導いただきました。

今回の学びを生かして、地域連携につとめてまいりたいと考えております。

ご講義賜りました鈴木進先生、ご協力いただきました小野薬品様には、この場をお借りして感謝申し上げます。



朝倉院長

齋藤室長

原医師

### 個別栄養指導のお知らせ(ご案内)

開業の先生方のところへ通院されている患者様で栄養指導が必要とされる方がいらっしゃいましたら、個別栄養指導を承ります。お気軽にご相談、ご紹介ください。

#### ○対象者

外来栄養食事指導料算定可能な患者様 **完全予約制です**(※事前予約をお願いします)

#### ○ご依頼方法

栄養食事指導用の診療情報提供書に必要事項をご記入の上、採血データと一緒に地域連携室へFAX送信してください。折り返し予約票をお送り致します。

【専用紙、栄養食事指導用の診療情報提供書は当院ホームページよりダウンロードしてご利用ください】

## CT 装置が新しくなりました!!



この度、当院放射線科の画像診断装置が更新され、CT 装置は Canon 社製「Aquilion Prime SP」、3D 医用画像処理ワークステーションはアミン社製「ザイオステーション 2 PLUS」となりました。

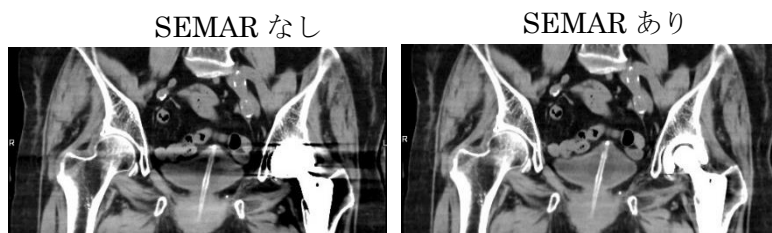
Aquilion Prime SP は 80 列のマルチスライス CT で、逐次近似応用再構成「AIDR 3D」や人工知能 (AI) の基盤となる技術である深層学習 (Deep Learning) を使った画像再構成「AiCE」など最新技術が搭載されております。ノイズ低減効果が高く、従来の半分程度の被ばく線量で同等以上の画質で提供が可能となりました。

また、金属アーチファクト低減処理「SEMAR」を用いることで体内金属によるアーチファクトを大幅に低減することが可能となりました。スキャンデータから金属成分を除いたデータを作って再構成し、後から金属成分の画像を足すというプロセスで画像が構築されています。複数の義歯、ペースメーカー、脳動脈瘤クリップ、コイルなど小さく複雑な形状の金属や皮膚表面の金属では最適な効果が得られない場合があります。診断の際には必ずオリジナル画像と比較して見ていただく必要がございます。画像検査の大敵であった金属アーチファクトの低減は診断に大きく寄与することと思えます。

3D 画像は従来ですとほとんどがマニュアル操作で手作りしてしていました。不要な物質を削除したり所見と接している他の骨を分離してキレイな 3D 画像を作るには時間がかかってしまいます。ザイオステーション 2 PLUS ではそれらの作業も半自動的に高精度で行うことができるようになりました。3D 画像の作成時間が短くなり、検査後に患者様をお待たせすることなく画像が提供できます。

被ばく低減、高画質、スループットの向上で、更なる質の高い診断のお手伝いが可能となりました。

どうぞご利用の程よろしくお願いたします。



## 糖尿病患者のご紹介について



いつも当院へご紹介いただきまして、ありがとうございます。

糖尿病 (教育入院要) の患者様のご紹介につきましては事前に地域連携室へ診療情報提供書の FAX をお願いたします。

通常の外来ではなく、特別枠で受診の調整をさせていただきます。

( 通常の外来よりスムーズです )

ご紹介、ご予約は直接地域連携室 (直通:022-306-1740) でお受けしておりますので、お気軽にご連絡ください。



発行: 独立行政法人 地域医療機能推進機構 仙台南病院 (JCHO仙台南病院)

仙台市太白区中田町字前沖 143 番地 (代表) TEL 022-306-1711 FAX 022-306-1712

地域連携室 (直通) TEL022-306-1740 FAX022-306-1741

